代々木病院の理念
ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

発行　医療法人財団 東京勤労者医療会　1部60円
〒151―0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷１―30―７
ＴＥＬ03(3404)7661
E-mail address　yo_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

住み続けられるまちをめざして

神宮前地域にみんな集える「たまりば」オープン

地域の皆さんと一緒に作りたい

2月3日、外苑診療所で「神宮前地域交流サロン たまりば」（以下、たまりば）の開設披露会が開催され、地域の参加者と代々木健康友の会の会員と職員が交流しました。

代々木病院長谷川事務長は挨拶で、「これから高齢化が進み、独り暮らしの方、認知症が5人にひとりという時代に向けて自助、自立の地域包括ケアが進められています。そんな中で、私たちは介護が必要になっても、認知症があっても、経済的な事情があっても、必要な医療・介護・福祉・生活支援が切れ目なく提供され、住みなれた地域で、当たり前に暮らしていけるまちを、地域の皆さんと一緒につくっていきたいと思っています。今回、診療所、友の会と一緒にこのような企画ができました。まだ、第1歩です。今日、ここに集まっていただいた方、この地域の方々が主人公になってこの取り組みを大きく広げていきたい」と抱負を述べました。

そして代々木健康友の会の布施会長には、「長生きで健康であるためには、人と人とのつながりとコミュニケーションが大切」と新潟十日町の実家を例えにユーモアたっぷりに話していただきました。また、代々木訪問看護ステーションの小林所長は、この「たまりば」が、生活をより豊かにするためのつながりになって欲しいと、期待をよせてくれました。

一方、原宿の丘地域包括支援センター櫻澤所長は、「地域サロン（＝たまりば）が相談に来た方に紹介できる場所になるかなと思っています。よろしくお願いします」と挨拶されました。

寒さの厳しい日でしたが、97歳の方、86歳で全て自分の歯とおっしゃる方、久しぶりに顔をあわせた方など神宮前、千駄ヶ谷にお住いの方、スタッフの約30人が楽しい時間を過ごしました。

レクリエーションで笑顔あふれる

自己紹介後のレクリエーションでは指や脳のトレーニングなどが行なわれました。代々木病院の居宅介護支援事業所の職員2人による「左側（偏）が『魚』で右側（つくり）が『参』、さて何て読むのでしょうか?」の問題にしばらく沈黙の後、「あじ～」の小さな声に歓声と拍手がわきおこりました。健康に役立つレクリエーションになり、会場である待合室が笑顔であふれました。

毎週火曜日午後2時から4時まで外苑診療所で開催しています。お気軽にご参加ください。代々木健康友の会と代々木病院、外苑診療所は、これからも　まちづくり、健康づくりの活動をひろげていきます。

笑顔で楽しく脳トレをする参加者

レクリエーションを教える職員（右の２人）

挨拶をする代々木病院の長谷川事務長（立っている人）

代々木健康友の会の布施会長（右）と役員

千駄の萱

イスラムの名を冠したテロ組織の凶刃に、命を絶たれた後藤さんの無念と事件の痛ましさを私は忘れられない。文明と宗教の発祥地である中東の情勢は混沌としている。その原因としては、宗教問題に加え、欧米諸国による様々な干渉が挙げられる。英仏露3国のサイクス・ピコ協定による現在の国境線は、国を持たないクルド人を生み出し、イスラエル建国は周辺での民族紛争の激化を招き、石油資源を狙った軍事的干渉等が混乱をより深刻にしている▼安倍総理は今回の事件を契機に、積極的平和主義の名の下に、憲法改正へ向けて前のめりになっているが、中東の現状と原因を十分に検証せずに事を進めることは危険だと私は思う▼「世界の運命を暴力で蹂躙させない唯一の方法は、一人ひとりが暴力を肯定しないことにある。」（ガンジー氏の言葉）、「世界の無学、貧困、テロに本とペンを持って闘いましょう。1人の子供、1冊の本、1本のペンが世界を変える。」（マララ氏の言葉）2人の言葉を基に暴力の連鎖から抜け出し、後藤さんの死を悼むことが、希望につながると私は思う。（ま）